

今年もベルマークで熊本復興支援

キリンビバレッジ九州地区本部がキャンペーン

熊本地震からもうすぐ3年。震災被害からの復興支援に取り組んでいる協賛会社のキリンビバレッジ株式会社(ベルマーク番号54)九州地区本部は、3月5日から約2カ月間、九州・沖縄各地の製菓会社とタイアップして「ベルマークで九州を笑顔にキャンペーン」を実施します。

「新しい生茶で熊本復興支援!」と題し、同社の清涼飲料水「生茶」についているベルマークを集めて応募すると、抽選で、A賞=お茶会と和菓子作りが体験できる食事会、B賞=地元で人気の和菓子または洋菓子詰め合わせ、が当たります。

A賞は生茶に付いているベルマーク10点分で応募できます。福岡県(6月22日)と熊本県(6月29日)の会場に、それぞれ10組20名を招待。レストランで食事を味わった後に老舗の和菓子職人による実演を見学、菓子作りも体験できます。

B賞は同5点分で応募。地元製菓会社の銘菓の詰め合わせと生茶1箱が、和菓子コース・洋菓子コース各

50名に当たります。

いずれも、店頭にある応募ハガキか郵便ハガキにマークを貼って、郵便番号・住所・氏名・電話番号、ご希望のコース(A賞は福岡会場か熊本会場、B賞は和菓子コースか洋菓子コース)を明記して以下に送ってください。

〒225-8799 日本郵便(株)青葉郵便局留
キリンビバレッジ・キャンペーン事務局
「ベルマークで九州を笑顔にキャンペーン」係

◇

応募受付期間は、2019年3月5日から4月30日(当日消印有効)まで。詳細のお問い合わせはキリンビバレッジ・キャンペーン事務局(0120-465-231 ※平日10:00~17:00 土・日・祝日・大型連休[4月27日~5月6日]を除く)へ。

このキャンペーンで集まったベルマークは、抽選終了後、熊本の子どもの支援に役立てられます。昨年実施したキャンペーンでは、ベルマーク4万点が集まり、熊本県益城町の2小学校へ寄付されました。

亡き先生への感謝の思いを表現

ファミリーマートありがとうの手紙2018 川崎・古川小の江尻さん

協賛会社のファミリーマート(ベルマーク番号23)が主催する、「ありがとうの手紙コンテスト2018」の受賞者への表彰式が各地で行われました。小学生を対象に、「ありがとう」の気持ちを手紙にしたためることで、伝えることの大切さを学んでもらいたいという思いから始まり、今回は10回目の開催です。

39,487通もの応募の中から、関東1ブロック中学年の部で最優秀作品賞に選ばれたのが川崎市立古川小学校(雲林院泰夫校長)3年の江尻桜空(さら)さんの作品。大好きな先生が約1年前に突然亡くなり、その先生を思って書いた手紙です。普通の手紙のように「お元気ですか」から始まり、先生のおかげで作文が好きになったこと、これからも作文で自分を表現していきたいという決意が綴られています。

2月12日に同校で表彰式があり、表彰状と副賞が江尻さんに渡されました。受賞作品を江尻さんが朗読し、亡くなられた先生の奥さまから届いた手紙へのお返事も

紹介されました。

雲林院校長は「まだ先生がすぐそばにいる、そんな気持ちになるような手紙でした」。ファミリーマート神奈川ディストリクト統括部長・伊藤聡さんは「これからもたくさんの人を感動させられるような良い作品を書いてください」と話しました。江尻さんは少し恥ずかしそうに「ありがとうございます」とお礼を言いつつ、嬉しそうな表情をみせました。

表彰式に先立ち、ファミリーマートの社員が集めたベルマークが古川小学校にプレゼントされました。

◇

コンテストは全国を7地区に分け、各地区で低学年・中学年・高学年の部門ごとに1人、計21人が最優秀作品賞に選ばれました。他に35人が審査員特別賞、7校が学校・団体賞に輝きました。最優秀作品はファミリーマートのホームページで実物を見られます。音声で聞くことも出来ます。



賞状を手にする江尻桜空さん。後列左から父親の昌弘さん、母親の泉さん、雲林院泰夫校長。

アミューズメント施設のハローズがマーク寄贈

アミューズメント施設のハローズ(本社・東京都中央区)は1月28日、マーク1480枚、計3652.1点を財団に寄贈しました。

同社はスーパーの店内などにゲームコーナーなどを全国展開し、81か所でベルマーク回収箱も置いたリサイクルコーナーを設け、来店客からマークを集めています。マークを持参してきてくれた同社管理部人事総務課課長代理の藤澤洋一郎さんによると、「ベルマークの活動が盛んな学校の近くは、学校にとられるのか、あまり集まりません」とのこと。逆にいえば、同社の設置した回収箱は、近くに持っていき場のないマークを救済する効果があったのかもしれない。

ありがとうございました。大切にに使わせていただきます。



明治安田生命のコンプライアンス統括部がマーク1万点を寄贈

明治安田生命保険相互会社(東京都千代田区)のコンプライアンス統括部が2月18日、集めたベルマーク約1万点をベルマーク財団に寄贈しました。

同部の田代洋介さん、山崎祐子さんのお二人が財団まで持参しました。マークは協賛会社ごとにきちんと仕分けされ、合計で1万250.3点ありました。昨年5月から今年1月まで部内で集めたそうです。

部員は約80人。保険会社らしく、1カ月ごとに1人10点集めよう、と目標を決めて取り組み、着実に結果を積み上げていったそうです。「自販機にベルマークの付いた『生茶』があるので、期限近くになると買う人が続出しました。

マークは仕事の合間に、2カ月ごとくらいに山崎さんが仕分けました。「財団のホームページに、会社別に整理してあると助かると書いてあったので」。その通りです。大変助かりました。



東京・中野区立中野中2年生が財団を訪問

東京都中野区立中野中学校の2年生が、2月15日に財団を訪れました。総合的な学習の中で「社会貢献活動の調査」をしています。

今回、財団に来てくれたのは、大澤晶さん、井上瑠厨さん、久住響生さん、篠木悠成さん、神藤航太さん、藤田美穂さん、増田彩乃さんの計7人。皆さんは、いくつかの受け入れ先候補がある中から、ベルマーク財団を選んでくれました。「小学校のときに集めていたから、どういうふうになっているか興味がありました」

この時期は一年のうちで最も多くのマークが届きます。倉庫内に何点のマークがあるか職員が問いかけると、男子チームは5000万、女子チームは800万と予想。答えは7500万点でした。「例年、もう少し経つと1億点を超えます」との説明に、みんな「お～」とびっくり。

「今日知った情報を広めていきたい」と感想を話してくれました。

